

別添 1

2026（令和8）年度 第53回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会 分科会概要

日時 令和8年8月7日（金） 9：00～12：00

会場 栃木県総合文化センター

第1分科会	知的障がい・発達障がい疑似体験		
会場	栃木県総合文化センター 特別会議室	定員	100名
テーマ	尊厳を支える支援とは何か～体験から考える意思決定支援～		
<p>現在支援にあたっている職員を対象に知的障害および発達障害の疑似体験を実施することで、日々の支援場面で見られる利用者の行動や反応について、その背景にある認知特性や感覚特性を体感的に理解し、支援の捉え方を見直す機会とします。</p> <p>これにより、「なぜうまくいかないのか」を個人の努力の問題ではなく、環境や関わり方の課題として再認識し、より適切な支援方法への改善につなげるとともに、不適切な対応や過度な要求を防ぎ、二次的な問題の予防を図ります。また、利用者一人ひとりの意思や選好を尊重した意思決定支援の視点を養い、利用者の尊厳を尊重した支援の質の向上を図ることを目的とします。</p>			
<p>開会(9:00)</p> <p>講演 「支援のその先にある家族の視点 ー現場職員に伝えたい親の気持ちー」(9:10～10:10)</p> <p>講師 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 副会長 一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子 氏</p> <p>休憩(10:10～10:25)</p> <p>知的障害者疑似体験プログラム(10:25～11:55)</p> <p>講師 知的障がい・発達障がい啓発隊カラフルBOX</p> <p>事務連絡</p> <p>閉会(12:00)</p>			

第2分科会	児童発達支援部会/障害者支援施設部会		
会場	栃木県総合文化センター サブホール	定員	150名
テーマ	「強度行動障害児者への理解を深め、意思決定につながる支援を考える」		
<p>現在、私たちの現場では、強度行動障害のある方への支援において、本人・利用者への権利侵害のリスクや対応にあたる職員の心身の疲弊など、非常に困難な状況に直面しています。</p> <p>本分科会では、単なる制度の理解にとどまらず、現場で日々向き合う職員が「本人の困りごと」を正しく理解し、意思に寄り添う支援につなげられるよう具体的ななかかわり方を学ぶことを目的とします。</p>			
<p>開会(9:00)</p> <p>講演 「標準的な支援を当たり前にするために～中核的人材の役割と本人を真ん中に置いた支援とは～」(9:10～10:00)</p> <p>講師 社会福祉法人八ヶ岳名水会 理事長 長田 和也 氏</p> <p>講演「幼児期から始まる成人期につながる予防支援とは」(10:00～10:50)</p> <p>～医療と福祉が連携した発達支援と保護者支援について考える～</p> <p>講師 柳川小児科医院 副院長 柳川 悦子 氏</p> <p>休憩(10:50～11:05)</p> <p>シンポジウム(11:05～11:50)</p> <p>テーマ「現場の職員ができる行動障害を示す方への支援と職員を支える地域の連携を考える」</p> <p>閉会(12:00)</p>			

第3分科会	日中活動支援部会/生産活動・就労支援部会		
会場	栃木県総合文化センター 第1会議室	定員	100名
テーマ	「変化する意思に対応する～選択肢を整え、選び直しを支える日中活動×就労支援～」		
<p>本分科会は、生活介護と就労支援に共通する課題を、意思決定支援の視点から整理し実践につなげます。本人の希望・意欲（意思）は経験や成功／失敗体験によって変化し、体調や加齢、生活リズム、家族状況、住環境、職場環境など本人を取り巻く条件も変化します。したがって選択は「生活介護か就労か」の二択ではなく、選択→体験→振り返り→再選択を回す循環モデルとして、本人中心に場と条件を調整し続けることが重要です。生活介護⇔就労の行き来事例を基に、選び直しを支える支援者の関わり、合意形成・情報共有・モニタリングの要点を共有し、本人にとって最善の利益を実現する連携の型を検討することを目的とします。</p>			
<p>開会(9:00)</p> <p>挨拶 全国日中活動支援部会長 森下 浩明 氏</p> <p>趣旨説明 栃木県障害施設・事業協会 生産活動・就労支援部会長 井上 憲一</p> <p>事例発表(9:10～9:40)</p> <p>(就労→生活介護の事例) 発表者 社会福祉法人渡良瀬会 水車 課長 矢澤 博司 氏</p> <p>(生活介護→就労の事例) 発表者 社会福祉法人同愛会 ながが和苑 管理者 塚田 翔伍 氏</p> <p>質疑応答(9:40～9:50)</p> <p>休憩(9:50～10:05)</p> <p>シンポジウム(10:05～11:35)</p> <p>進行 全国日中活動支援部会長 森下 浩明 氏</p> <p>全国生産活動・就労支援副部会長 福岡 新司 氏</p> <p>シンポジスト 社会福祉法人渡良瀬会 水車 課長 矢澤 博司 氏 (事例発表者)</p> <p>社会福祉法人同愛会 ながが和苑 管理者 塚田 翔伍 氏 (事例発表者)</p> <p>閉会(11:50～12:00)</p> <p>挨拶 全国生産活動・就労支援副部会長 福岡 新司 氏</p> <p>群馬県日中活動支援部会長 櫻井 眞二 氏</p> <p>群馬県生産活動・就労支援部会長 石倉 敦也 氏</p>			

第4分科会	地域支援部会/相談支援部会		
会場	栃木県総合文化センター 音楽練習室	定員	80名
テーマ	「地域支援の原点回帰とこれから」		
<p>現代社会において、社会の様々な変化の中で多様な暮らし方が進んでいく一方で地域における生活課題も多様性を含み、「地域共生社会の実現」に向けた実践が各地で広がり、新たな地域支援・相談支援の役割が求められているところです。</p> <p>本分科会では、「地域支援・相談支援の原点」に立ち返り、制度・地域社会・価値観の変化を踏まえながら、これからの支援の方向性を多角的に議論します。登壇者のこれまでの実践からマインドや現場経験を共有しつつ、利用者主体の支援、地域との協働、意思決定支援の深化など、今後の実践に求められる視点を模索することを目的に開催します。</p>			
<p>開会(9:00)</p> <p>シンポジウム「地域支援の原点回帰とこれから」(9:00～12:00)</p> <p>コーディネーター 社会福祉法人三富福社会 業務執行理事 服部 敏寛 氏</p> <p>シンポジスト 社会福祉法人星谷会 理事長 河原 雄一 氏</p> <p>社会福祉法人唐池学園 統括施設長 富岡 貴生 氏</p> <p>社会福祉法人もえぎの会 業務執行理事 石本 伸也 氏</p> <p>閉会(12:00)</p>			